

あふれる情報を

新聞というモノにする。

読者に何をどう伝えるべきか。

デスクと現場の記者が議論を重ね、編集方針を立てる。

そして、記者が書いてきた記事をデスクがチェックする。

間違いがないか、わかりやすいかは当然のこと、

ニュースとして価値はあるか、取材量は十分か、的が絞れているか。

読んでもらうために、情報の整理が何より重要だ。

記者が正義感で視野が狭くなっていることもある。

事実に基づいているか、反対者の意見も聞いているか。

修正や、再度の取材を命じることもある。

わかってくれないと記者が思うこともあるだろう。

あの時、こうしたらよかったとならないように

正確な判断材料を提供して、読者に考えてもらいたい。

地元が衰退すれば、新聞社も衰退する。

地元と新聞社は運命共同体だ。

だからこそ、地元がいい影響をあたえる存在でありたい。

そう思いながら、今日も記事をチェックする。

新聞を配ることは、気を配ること。